

分野	12	就学前教育・保育
施策	121	就学前教育・保育基盤の充実
5年後の目標		待機児童が解消し、子育てをしながら安心して仕事を続けられる環境が充実している。

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	保育所施設整備事業		会計	款	項	目	104,559,836	福祉政策室
			一般	3	2	2		
事業の概要								
待機児童の解消を図り、安全な保育環境を確保するため、耐震化・増築等保育所施設の整備改修を行います。開田保育所は、移転・新築で平成28年4月、神足保育所は、増築・改修で平成30年4月、新田保育所は、移転・新築で平成31年4月にそれぞれ開所を予定し、入所定員の増員を図ります。								


平成28年度の取組							
D (取組)	指標	公立保育所の耐震化割合(5施設)				単位	—
	現 状(計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	3/5(神足、深田、滝ノ町保育所が耐震化済)	目標	4/5 (開田保育所耐震化完了)		4/5	5/5 (新田保育所耐震化完了)	
		実績	4/5				
	指標	4月1日時点待機児童数				単位	人
現 状(計画策定時)	年度	28	29	30	31	32	
28(平成26年度)	目標	60	50	20	0	0	
	実績	78					
<ul style="list-style-type: none"> 平成28年4月1日に開田保育所が移転改築したことにより、耐震化が完了しました。 公立、民間保育園(小規模含む)をあわせた定員は、平成28年4月1日時点で1,472名(昨年度比75名増)でした。 待機児童数は、平成28年4月1日時点で78名(昨年度比63名増)でした。 							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成28年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
		—	—	—
C (評価)	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 一施設の耐震化が完了しました(開田保育所)。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 新田保育所の耐震化工事が必要です。 待機児童の解消に向け、民間の認可保育園の新設や公立保育園の改築等による定員増が必要です。 		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1:計画通りに進めることが適当
	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年4月1日に神足保育所の増築・改修工事が完了する予定です。 平成31年4月1日に新田保育所の移転改築工事が完了し、公立保育所の耐震化が全て完了する予定です(上記2工事により定員120名程度増加を予定しています)。 平成29年9月1日に西山井ノ内保育園(仮称)が開園を予定しています(定員60名)。 平成30年4月1日にひまわり保育園(仮称)が開園を予定しています(定員72名)。

分野	12	就学前教育・保育
施策	121	就学前教育・保育基盤の充実
5年後の目標		待機児童が解消し、子育てをしながら安心して仕事を続けられる環境が充実している。

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	もうすぐ一年生事業		会計	款	項	目	75,854	学校教育課
			一般	10	1	2		
事業の概要								
幼稚園や保育所等の幼児が小学校へ体験入学することで、小学校入学後の生活習慣や学習習慣の変化に対応できるようにします。 また、保育所・保育園・幼稚園等と小学校の教員による、保幼小連携会議で互いの教育・保育内容の理解を深め、就学前機関から小学校への円滑な移行を図ります。								

平成28年度の取組							
D (取組)	指標	「もうすぐ一年生事業」に取り組む小学校数				単位	校
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	10(平成26年度)	目標	10	10	10	10	10
		実績	10				
<ul style="list-style-type: none"> 給食体験と学習体験等を各小学校で実施しました。給食は、5年生或いは1年生、他の学年も含めて教室やランチルームで喫食しました。 1年生の教室にて1年担任による一斉指導スタイル(授業はじまりの挨拶、先生の指示、挙手して発言する、プリントの配布、授業おわりの挨拶)の授業体験をしました。 長岡京市保幼小連携会議にて、「もうすぐ1年生体験入学事業の趣旨理解」「講演会」「実践報告(長岡第四小・きらら保育園・友岡保育園)」「日常的な取組等の協議」を行いました。 							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成28年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—		—	
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 幼児にとっては、小学校生活をイメージでき、期待を膨らませる機会となりました。 幼稚園・保育所(園)の教職員にとっては、小学校1年生の教室の様子や授業を体験する幼児の様子を観察することで、保育所、幼稚園での指導・支援に活かされています。 小学校にとっては、スタート期の児童のスムーズな移行を視野に入れた指導・支援方針に活かされています。 小学校児童にとっては、幼児と交流することで、積極性と自信を培う機会となりました。 全体研修会やもうすぐ一年生の具体的な活動の共通理解場面での話し合いなど、小学校と就学前機関とのつながりが深まり、接続カリキュラムの重要性を共通理解ができました。 	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 給食体験は、アレルギー対応にかかわる問題の克服が課題です。 公開保育や小学校の研究発表会に、『就学前の生活と教育』という視点での積極的な参加が望まれます。 			

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
A (行動)	1: 計画通りに進めることが適当	引き続き、全ての小学校と市内の全ての保育所、保育園、幼稚園が参加して、教職員のみならず保護者も含め保幼小連携の意識を高めて行きます。